

信大校友会メルマガ第63号 2019年1月31日

信 | 大 | 校 | 友 | 会 | メ | ル | マ | ガ | 第 63 号 |

2019 年 1 月 31 日

毎月お届けする信大校友会発信のメールマガジン

《《《信大校友会事務局》》》

今月号から、信大の名誉教授よりご寄稿をいただき
不定期ですがメールマガジンでご紹介いたします。

[illegible]

【 I N D E X 】

—* *

今月の一枚 。 D 。

$$\bullet \bullet \text{-----} * \quad (\bullet \bullet) \quad \circ$$

信大からのお知らせ。＊（ ）＊

• • • • •

信大周辺のうまいもん

《new!》 信大名誉教授よりみなさんへ

■ ■ ■ *** ■ ■ ■ 【 今月の一枚 】 ■ ■ ■ *** ■ ■ ■

《 Natio(ナティオ)浄水ボトル 》

信州大学では産学官の連携を強化しており、その中で様々な商品が生まれています。今回はとクラスとのコラボで生まれた『携帯型浄水ボトル』をご紹介します。《信大クリスタル》がフィルターに使われています。

「信大クリスタルってなに？」も含め、詳しくは次ページ以降をご覧ください。

■ ■ ■ ■ ■ 【 信大からのお知らせ 】 ■ ■ ■ ■ ■

【参加者募集】

〔人文学部〕文化情報フォーラム 2019

《かたラボ！》

語る×LABO ～文系学生がカガクしてみた～

人文学部文化情報論分野の学生の一年間取り組んだ

成果を大学外の方々に発信し、生活に役立てていただくことを目的として開催いたします。

【期 間】平成31年2月9日(土)・10日(日)

【場 所】松本市中央公民館（M ウィング）

【対 象】 どなたでも

【参加費】 無料

詳細はこちらをご覧ください

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/event/course02/in-culture/2019.php>

【イベント情報】

平成30年度 信州大学教育学部学生書道展のお知らせ

前年度までは「卒業書道展」との名称で開催していましたが、今年度より「学生書道展」と改めることになりました。在籍する学年に関わらず多くの学生が出品いたします。この書道展に向けて日々練習に励んだ成果を発表致しますので、ぜひ足をお運びください。

【日 時】平成31年2月13日(水)～17日(日)
9:00～17:00(17日は15:00まで)

【場 所】 信濃教育会館1階 信濃教育博物館
第1展示室（長野市立長野図書館西隣）

【入場料】 無料

■ ■ ■ ■ ■ 【 信大周辺のうまいもん 】 ■ ■ ■ ■ ■

飯山の郷土料理『のろし鍋』

この鍋が食べられるのは、長野県の北部にあります飯山市です。なぜ、飯山市が今回出てきたかといいますと、信州大学では、観光庁と連携し『ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座』を開講しており、この講座のモニターツアーの実施が飯山市で行われたつながりです。

かまくらの中で、アツアツの鍋料理をいただくことができます。さて、どんな感じなのでしょう？

続きは次ページ以降をご覧ください。



■■■■■ 【 信大名誉教授よりみなさんへ 】 ■■■■■

人文学部名誉教授 渡邊秀夫先生よりご寄稿いただきました。

本文は次ページ以降をご覧ください。



メルマガのバックナンバーはこちらから
<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

MAILMAGAZINE 『信大校友会第 63 号』
編集・発行／信大校友会事務局
長野県松本市旭 3-1-1
【メール】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【HP】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>
【FB】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2019.1.31



校友会メルマガ【今月の一枚】第 63 号

信大クリスタルを使った携帯型浄水ボトル
商品名は【NaTiO(ナティオ)】

信州大学が強みを持つ「フラックス法」という技術を用いて育成した
高品質な結晶「信大クリスタル」を利用した製品が誕生しました！

今回、信州大学とトクラスのコラボで生まれた
『携帯型浄水ボトル (NaTiO ナティオ)』には、信大クリスタルの
製品化第一弾として重金属吸着剤（三チタン酸ナトリウム）を利用しています。



商品名は【NaTiO(ナティオ)】といいます

残留塩素はもちろんのこと、水に溶け込んだ鉛をはじめとする
重金属類も効率的に吸着・除去してくれるそうです。

持ち運びしやすいサイズの浄水器なので、
お出掛けのお供や、デスクワークの相棒にいかがですか？

2018年12月25日より、トクラスのHPで販売中です。
2月中旬以降は、信州大学各キャンパスの生協でもお求めいただけます！



校友会メルマガ【信大周辺うまいもん】第63号

飯山の郷土料理 『のろし鍋』

かまぐらの中で食べるアツアツの『のろし鍋』
地元で採れた白菜やキノコたちをふんだんに使った、味噌仕立ての具沢山鍋です。

『のろし鍋』の名前の由来は、
戦国時代に黒岩山（長野県と新潟県の県境にある山）にあった
上杉謙信方の「のろし台」にはじまると言われているそうです。
モクモク立ちのぼる湯気が「のろし」のように見えるからでしょうか。



写真に写っている方はコーディネーターさんですが、
鍋を拝んでいるわけではないようです。
「食べさせてください」とお願いしている姿でもないそうです。

そちらに視線がいきつてしまいますが、鍋にご注目をお願いいたします。
グツグツとおいしそうに出来上がっています。
飯山産コシヒカリのおにぎりや野沢菜の漬物もお鍋を注文すると付いてくるそうです。



かまくらで鍋を楽しみたい方は「レストラン かまくら村」へ行ってみてください。
この時期でしか体験できないことを、楽しってみませんか？
2月28日まで開催しています。[要予約]

かまくら村の詳細はこちらです。

<https://www.iiyama-ouendan.net/special/kamakura/doc/kamakura.pdf>

校友会のメルマガや Facebook でサークルなどの広報活動の
広報活動に利用してみませんか？

メルマガは月末配信、Facebook は随時掲載可能です。

“残生”と“余生”

渡邊 秀夫

我が恩師の晩年、折々に口にしていたのは「残生暮途」ということばであった。人生のおおよそは過ぎ去り、果たすべき志も半ばにして残された寿命はあとわずか、日暮れて道遠しというほどの意味。漢語「残」は「損なう、減ぶ」の意義をもつから、「残生」はいかにも痛ましい響きがある。これに対して「余生」はいかがであろう。「余」は、「自由に伸びる」「有り余る」意。今日の“超寿”社会は、まさに持てあますばかりの長い老境。「余裕」というほどの「財」は無くとも、有り余る自由を謳歌できる「余生」ならば、これを幸い、この恩恵を大いに楽しみたいもの。

この数年、科研関連の「国風文化研究会」に参加し、旧来の国文学の枠組みから解放され、特定の学会や大学間の枠をも超えた、多領域・多世代の研究手法を学びなおす機会に恵まれた。久しぶりに味わう院生時代の華やいだ興奮が嬉しい。この学的刺激を糧に、衰える体力にめげず、定年後3冊目の著書の執筆に着手。

また今年は、本学との交流協定があるワルシャワ大学東洋学部日本学科の創立100周年にあたる。しばしば客員教授として講義を担当した機縁もあり、記念の国際会議へのインビテーションを頂いた。出講している本学の共通教育では、日本文化に興味津々の交換留学生の受講も多く、これにも励まされ、今後とも日本古典文学の普及に微力を尽くそうと思う。

